

野洲市乳幼児保育振興計画

——幼稚園・保育園のあり方——

平成21年 8月

野 洲 市
野洲市教育委員会

はじめに

幼児期は生涯にわたる人間形成の基本が培われる大切な時期です。

子どもにとって、この時期の体験や生活環境はその後の心身の発達に大きな影響を及ぼす大切なものです。人々とのふれあいや社会体験などを通じて「生きる力」や「思いやりの心」を育めるよう、発達段階に応じた生活や遊びを直接的、具体的な経験を豊富にすることがもとめられています。

しかし、近年の少子化、核家族化の進展、就労形態の変化、児童虐待の増加、家庭や地域における子育て機能の低下など、乳幼児を取り巻く環境は著しく変化しており、乳幼児の保育・教育ニーズも多様化しています。このような社会情勢を踏まえ、保育所・幼稚園は乳幼児期の子どもたちの心身の健やかな発達を確かなものにし、多様で豊かな活動を通じて、小学校入学前の基礎を培う重要な役割を担ってきました。

もとより保育所は、児童福祉法に基づき、保護者の就労等の事情により家庭で保育を受けられない児童に対して、保育（養護と教育）を行う福祉施設であるのに対して、幼稚園は、学校教育法に基づき、親の希望により幼児教育の観点から教育を行う教育施設です。しかし、前述したとおり、地域の子育てニーズの多様化により、保育所、幼稚園、地域の様々な子育て支援は、地域の事情に応じた設置・運営が求められています。

そこで、「野洲市乳幼児保育のあり方検討委員会」において平成18年2月、今後の乳幼児保育のあり方、特に幼保一元化のあり方について、現行制度の利点を踏まえ、実施可能な方法で工夫して一元化を進めることが重要であり、「保育所と幼稚園の併設で日々交流保育を実施する」「幼稚園を基本に預かり保育を実施する」「統一された指導計画を作成し実践する」等、野洲市の現状を考慮し進めることが望ましいという提言内容でした。

本市では、この提言を受け、幼稚園の3年保育の拡充や三上幼稚園での預かり保育の実施、幼児課の設置による幼保一元化を進めてきました。このような状況のなかで、幼稚園・保育園における乳幼児保育の一層の充実を図り、総合的に推進するための指針として「野洲市乳幼児保育振興計画」を策定しました。

I 計画の期間

この振興計画の期間は、「野洲市次世代育成支援行動計画」との整合性を踏まえ、平成21年度を初年度とし、平成26年度を目標年度とする6か年とします。

なお、計画期間中においても、事業の進捗状況と今後の社会経済情勢や国・県の動向、市民ニーズの変化等により、必要に応じてこの計画を見直します。

Ⅱ 本市の状況

1. 乳幼児人口について

野洲市の乳幼児人口推移については、野洲市次世代育成支援行動計画後期計画の推計を元に平成16～21年度の住民基本台帳データから推計すると、除々に減少しており、少子化傾向にあります。しかし、人口推移には野洲市総合計画の人口推移・推計に基づく政策的誘導によるものや大規模な住宅開発による人口増については、正確な予測が困難なため見込んでいないことから、今後の動向には最大限注意を払うこととします。

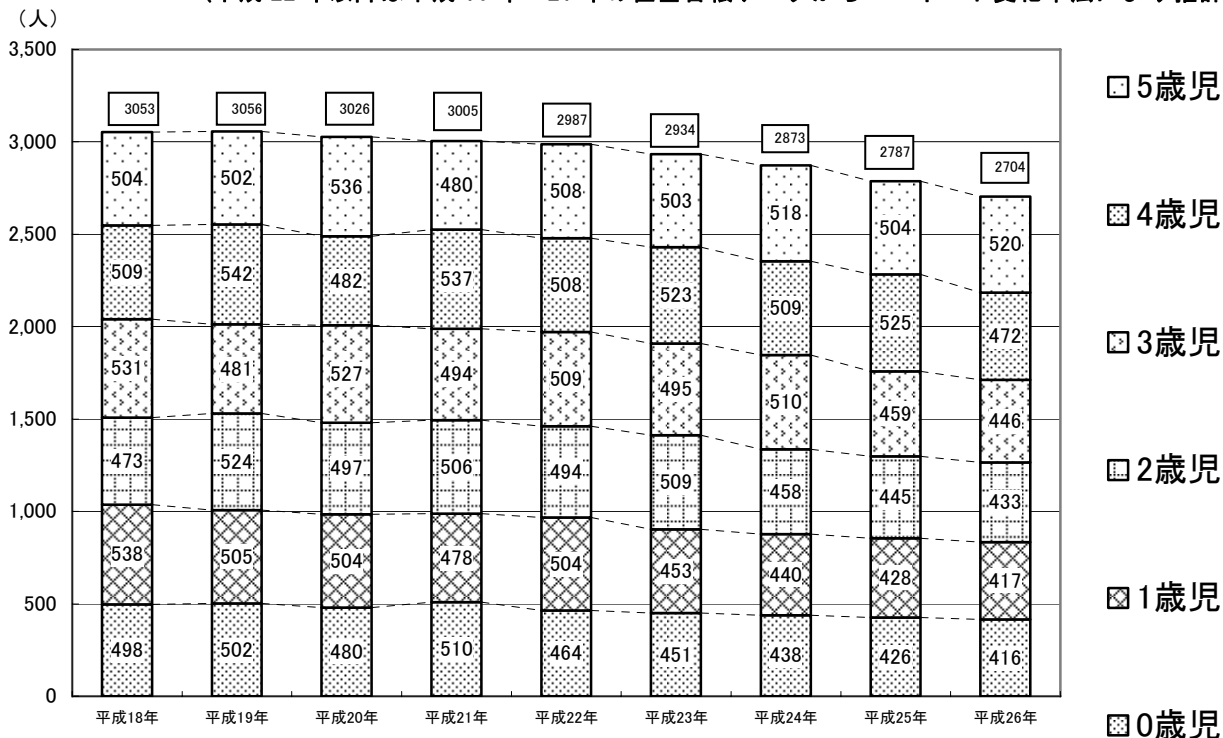
野洲学区においては、野洲駅周辺に建設された高層住宅等の影響により子どもの数が増加し、今後も引き続きその傾向は続くと思われます。祇王学区においても市街化区域における宅地造成が進み、年々増加の傾向にあります。北野学区・中主学区においては、一時期増加傾向にありましたが、近年若干の減少傾向にあります。

一方、三上学区・篠原学区においては、今後、宅地造成等人口が増加する要因に乏しく減少傾向にあります。特に、三上幼稚園、篠原幼稚園においては園児数が減少し、集団保育の運営は困難な状況になってきています。

図1 野洲市乳幼児人口推移

野洲市次世代育成支援行動計画（後期計画より）

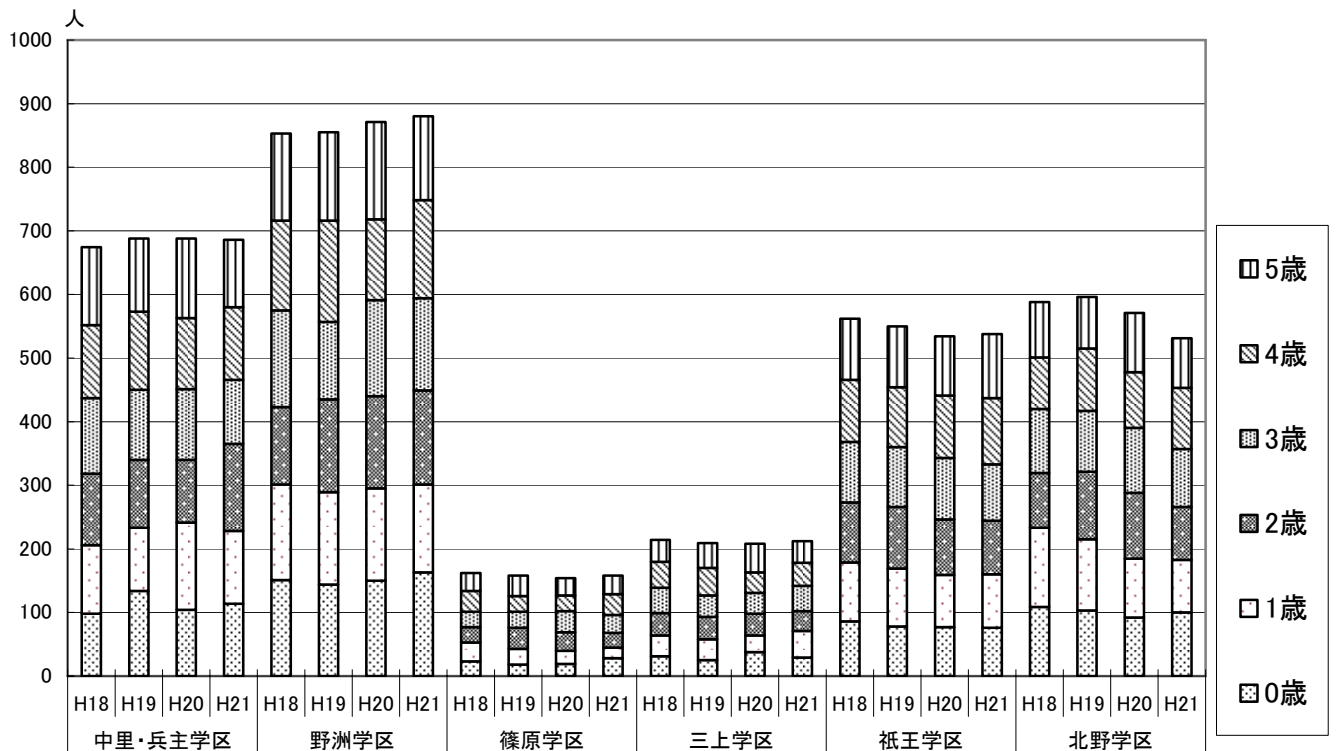
（平成22年以降は平成16年～21年の住基台帳データからコーホート変化率法により推計）



※ 平成21年度までは4月1日現在の乳幼児人口

※ この表の推計値には、まちづくり施策や企業立地など、政策的誘導によるものや大型団地、大規模マンション等の住宅開発による人口増は見込んでいません。

图2 野洲市学区別乳幼児人口推移（平成18年度～平成21年度）



* 各年度4月1日乳幼児人口

表1 学区別乳幼児数（平成21年4月1日現在）

（単位：人）

年齢	中里・兵主学区			野洲学区			篠原学区			三上学区			祇王学区			北野学区			合計
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
0歳	62	52	114	91	72	163	12	16	28	15	14	29	38	38	76	42	58	100	510
1歳	58	56	114	77	61	138	9	8	17	18	24	42	48	36	84	42	41	83	478
2歳	85	52	137	79	69	148	12	11	23	14	17	31	42	42	84	38	45	83	506
3歳	58	43	101	81	64	145	17	11	28	22	18	40	50	39	89	42	49	91	494
4歳	60	54	114	88	66	154	19	14	33	24	12	36	49	55	104	43	53	96	537
5歳	60	46	106	61	71	132	17	12	29	17	17	34	56	45	101	37	41	78	480
計	383	303	686	477	403	880	86	72	158	110	102	212	283	255	538	244	287	531	3,005

表2 三上幼稚園及び中主幼稚園の預かり状況（平成17年度～21年度）

（単位：人）

幼稚園名	年齢区分	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
三上幼稚園	3歳児	未実施	5	3	0	0
	4歳児		1	6	0	0
	5歳児		2	3	3	0
	計		8	12	3	0
	緊急預かり 延べ人数		72	77	34	—
中主幼稚園	3歳児	12	19	25	15	15
	4歳児	20	15	33	21	22
	5歳児	31	20	25	39	23
	計	63	54	83	75	60
	緊急預かり 延べ人数	372	202	200	367	—

*各年度5月1日現在の利用人数

*緊急預かりは年間延べ人数

表3 保育所（園）・幼稚園 施設の現状（平成21年5月1日現在）

○印は民間保育所（園）

	園名	定員	園児数	施設経過年数
野洲学区	野洲第一保育園	150人	158人	33年
	野洲第三保育園	60人	65人	27年・10年(改修)
	○しみんふくし保育の家	45人	45人	13年
	○野洲優愛保育園モンチ	60人	60人	1年
	野洲幼稚園	380人	237人	29年・5年(増築)
	学区合計	695人	565人	
三上学区	三上保育園	60人	59人	31年
	三上幼稚園	130人	62人	7年
	学区合計	190人	121人	
祇王学区	○祇王明照保育園	120人	126人	22年・19年(増築)
	祇王幼稚園	215人	145人	33年・4年(増築)
	学区合計	335人	271人	
篠原学区	篠原保育園	80人	74人	23年
	篠原幼稚園	95人	42人	35年・21年(増築)・17年(増築)
	学区合計	175人	116人	
北野学区	野洲第二保育園	90人	85人	35年
	○きたの保育園	80人	81人	5年
	北野幼稚園	250人	155人	21年・17年(増築)・3年(増築)
	学区合計	420人	321人	
中里・兵主学区	○あやめ保育所	90人	101人	31年・18年(増築)・9年(増築)
	中主幼稚園	400人	259人	7年
	学区合計	490人	360人	
全市合計	保育所(園)【10園】	835人	854人	
	幼稚園 【6園】	1,470人	900人	
	合計	2,305人	1,754人	

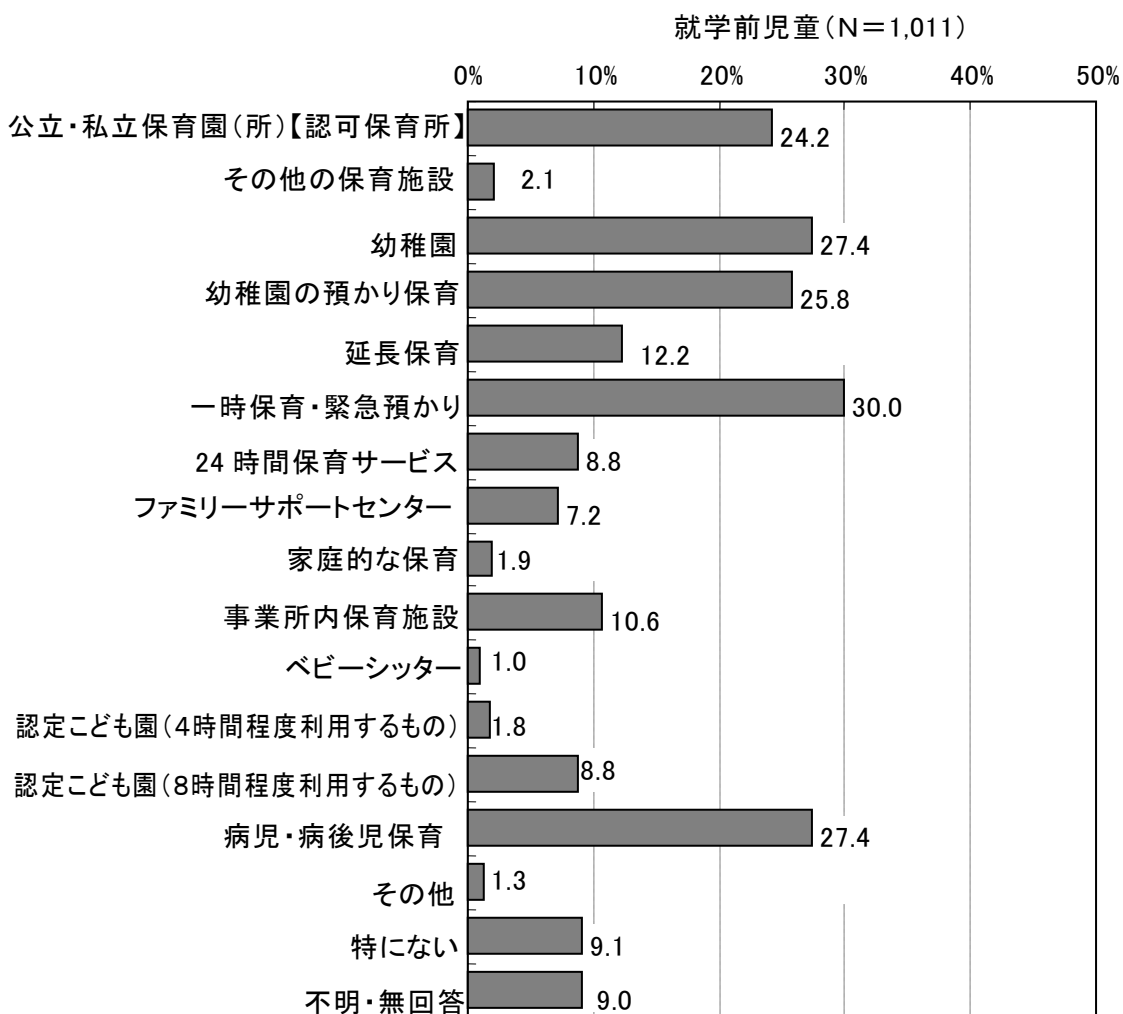
2. 子育て支援へのニーズについて

旧中主町、旧野洲町の幼稚園・保育所（園）は、それぞれ地域の保育ニーズにより運営を実施してきました。合併後は、従来の運営方針を基礎に、国・県・近隣の動向や地域の特性及びニーズを踏まえ、保育を実施しています。子育て支援サービスに対する多様なニーズの中には幼稚園における預かり保育の実施や保育所（園）や幼稚園の園庭開放等があります。

(次世代育成支援に関するニーズ調査 平成21年1月実施結果より抜粋)

(1) 保育サービスの今後の利用意向(複数回答)

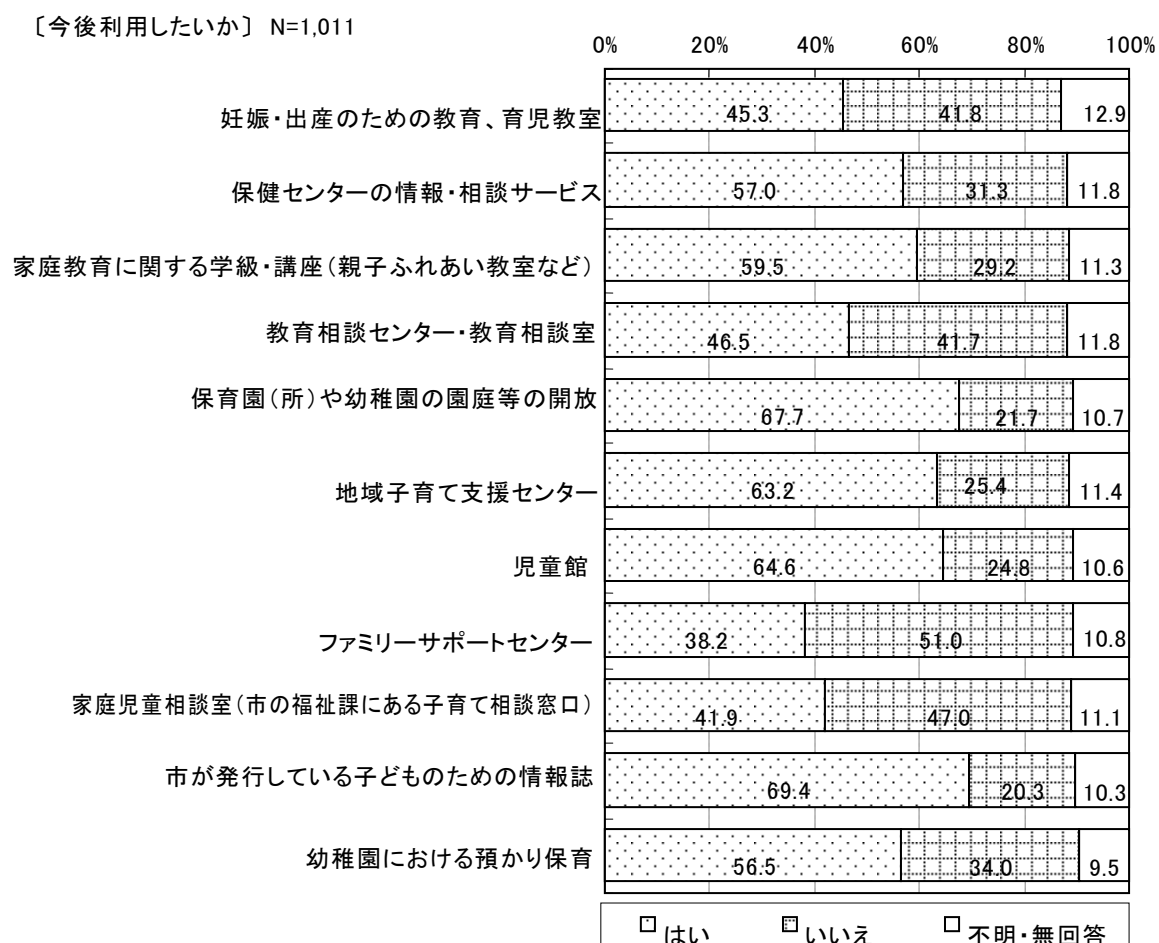
保育サービスの今後の利用意向についてみると、「一時保育・緊急預かり」が30.0%と最も高く、次いで「幼稚園」「病児・病後児保育」が27.4%、「幼稚園の預かり保育」が25.8%となっています。



(2) 今後利用したい（利用意向）

今後の利用意向についてみると、『保育園（所）や幼稚園の園庭等の開放』『地域子育て支援センター』『児童館』『市が発行している子どものための情報誌』では「はい（今後利用したい）」が6割以上となっています。

一方「いいえ（今後利用しない）」では、『ファミリーサポートセンター』『家庭児童相談室（市の社会福祉課にある家庭や子どもの悩みの相談窓口）』が約5割となり、利用意向は相対的に低くなっています。



(3) 保育サービス開始時間の希望 (数量回答)

開始時間	公立・私立保育園(所) 【認可保育所】 N=245		その他の保育施設 N=21		幼稚園 N=277		幼稚園の預かり保育 N=261		延長保育 N=123		家庭的な保育 N=19		事業所内保育施設 N=107		ベビーシッター N=10		(4時間程度の利用) 認定子ども園 N=18		(8時間程度の利用) 認定子ども園 N=89	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	2時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0
6時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7時	22	9.0	2	9.5	0	0.0	5	1.9	3	2.4	0	0.0	3	2.8	0	0.0	0	0.0	5	5.6
8時	86	35.1	4	19.0	27	9.7	17	6.5	9	7.3	0	0.0	21	19.6	0	0.0	1	5.6	21	23.6
9時	77	31.4	4	19.0	167	60.3	41	15.7	4	3.3	6	31.6	29	27.1	1	10.0	1	5.6	23	25.8
10時	5	2.0	0	0.0	3	1.1	1	0.4	1	0.8	0	0.0	2	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
11時	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
12時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	1.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
13時	1	0.4	0	0.0	4	1.4	30	11.5	0	0.0	1	5.3	1	0.9	0	0.0	2	11.1	0	0.0
14時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	59	22.6	1	0.8	1	5.3	0	0.0	1	10.0	0	0.0	0	0.0
15時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	12	4.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	10.0	0	0.0	0	0.0
16時	1	0.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	3.3	2	10.5	1	0.9	0	0.0	1	5.6	0	0.0
17時	2	0.8	0	0.0	0	0.0	2	0.8	4	3.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
18時	0	0.0	1	4.8	0	0.0	0	0.0	42	34.1	0	0.0	1	0.9	0	0.0	0	0.0	0	0.0
19時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
不明・無回答	50	20.4	10	47.6	76	27.4	88	33.7	53	43.1	9	47.4	49	45.8	7	70.0	13	72.2	40	44.9

※1時・3～5時・20～24時は件数なし

(4) 保育サービス終了時間の希望 (数量回答)

終了時間	公立・私立保育園(所) 【認可保育所】 N=245		その他の保育施設 N=21		幼稚園 N=277		幼稚園の預かり保育 N=261		延長保育 N=123		家庭的な保育 N=19		事業所内保育施設 N=107		ベビーシッター N=10		(4時間程度の利用) 認定子ども園 N=18		(8時間程度の利用) 認定子ども園 N=89	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
	12時	2	0.8	0	0.0	2	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0
13時	1	0.4	0	0.0	5	1.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
14時	7	2.9	1	4.8	81	29.2	3	1.1	0	0.0	1	5.3	1	0.9	1	10.0	1	5.6	1	1.1
15時	4	1.6	0	0.0	81	29.2	15	5.7	0	0.0	1	5.3	4	3.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
16時	41	16.7	2	9.5	24	8.7	46	17.6	0	0.0	1	5.3	4	3.7	0	0.0	1	5.6	12	13.5
17時	43	17.6	3	14.3	4	1.4	58	22.2	1	0.8	5	26.3	17	15.9	1	10.0	0	0.0	18	20.2
18時	57	23.3	3	14.3	3	1.1	43	16.5	7	5.7	0	0.0	19	17.8	0	0.0	1	5.6	12	13.5
19時	23	9.4	1	4.8	0	0.0	22	8.4	29	23.6	0	0.0	5	4.7	0	0.0	0	0.0	3	3.4
20時	13	5.3	1	4.8	1	0.4	1	0.4	25	20.3	0	0.0	4	3.7	1	10.0	0	0.0	2	2.2
21時	1	0.4	0	0.0	0	0.0	1	0.4	7	5.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
22時	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.4	2	10.5	0	0.0	0	0.0	1	5.6	0	0.0
不明・無回答	53	21.6	10	47.6	76	27.4	72	27.6	51	41.5	9	47.4	53	49.5	7	70.0	13	72.2	41	46.1

※1～11時・23～24時は件数なし

(5) 今は利用していないが、今後利用したいと思う保育サービス・すでに利用しているが、利用日数等を増やしたい保育サービス

	上段:度数 下段:%	合計	公立・私立保育園(所)【認可保育所】(国が定める最低基準に適合した施設で県の認可を受けたもの)	その他の保育施設(認可外保育所等)	幼稚園(通常の就園時間)	幼稚園の預かり保育(通常の就園時間を延長して預かるサービス)	延長保育(保育園で午後6時・6時半以降も預かるサービス)
問6 小学校区	合計	1011 100	245 24.2	21 2.1	277 27.4	261 25.8	123 12.2
	野洲	341 100	93 27.3	5 1.5	109 32	100 29.3	42 12.3
	三上	70 100	17 24.3	1 1.4	17 24.3	9 12.9	7 10
	北野	184 100	45 24.5	4 2.2	50 27.2	52 28.3	22 12
	祇王	167 100	37 22.2	6 3.6	43 25.7	42 25.1	21 12.6
	篠原	46 100	10 21.7	1 2.2	9 19.6	7 15.2	11 23.9
	中主	195 100	42 21.5	4 2.1	48 24.6	49 25.1	19 9.7
	不明・無回答	8 100	1 12.5	-	1 12.5	2 25	1 12.5

(6) 本市の子育て支援に希望すること(自由回答欄より抜粋)

保育園		件数
保育園の待機児童がないようにお願いしたい		23
保育園の増設		12
市内の保育園の預かり時間を統一して長くしてほしい(開始・終了とも)		9
幼稚園		件数
市内全域で幼稚園の延長保育を実施してもらいたい(就労のためなど)		36
幼稚園の選択肢を増やしてほしい		4
幼稚園の就園時間を年少から年長まで統一してほしい		2
保育園・幼稚園		件数
保育園・幼稚園の料金を安くしてほしい		16
幼稚園・保育園の設備の改善、充実(教室の増設、園庭の充実、危険遊具の撤去など)		7
一時保育		件数
第二子・第三子出産のための一時保育を充実させてほしい		3

3. 保育・教育行政の取り組みについて

野洲市では、人権と環境を基本テーマにまちづくりを進めてきました。

学校教育法と児童福祉法という法的な縛りと、縦割り行政は依然として続きますが、本市では、「人権保育基本方針」「同和保育基本方針」「人権教育基本方針」「同和教育基本方針」をもとに、幼稚園と保育所（園）の連携を深めながら、子どもの権利保障の充実に取り組んでいます。

また、就学前の乳幼児は、保護者が就労しているか否かに関わらず、どの子どもも同じ幼児教育と必要に応じた保育の機会が与えられ、発達段階に合わせ適切な時期に適切な保育・教育が行われることが大切です。本市では、このことが幼児の望ましい発達を促すという基本的な考え方に基づいて、乳幼児に対する保育や教育を実践しています。

具体的な取り組み内容は、次のとおりです。

- ・ 幼稚園は公立が6か所あり、平成14年度から幼稚園3年保育を1か所、平成17年度から3か所で開始し、平成18年度には2か所で実施しました。
- ・ 保育所（園）では公立が5か所、民間が5か所で、0歳から就学までの保育を実施しています。
- ・ 平成14年度から中主幼稚園で預かり保育を開始し、平成18年度から三上第一保育園の廃園と同時に三上幼稚園でも預かり保育を開始しました。
- ・ 平成18年度から公立幼稚園・保育園において、「野洲市乳幼児保育年間指導計画」をもとに保育を進めていきました。
- ・ 平成18年度から公立幼稚園・保育園職員の人事交流を開始し、保育や教育の指導の幅を広げ、資質向上と活性化を図りました。
- ・ 平成18年度から『乳幼児保育のあり方ワーキング会議』において、幼保一元化を進めるための具体的な方策等を、保育園の「民営化」および「認定こども園」の導入も含めて検討しています。
- ・ 平成20年度から幼保一元化に向けて幼児課を設置し、幼稚園・保育所（園）の所管を統一しました。

Ⅲ. 国の動向と市の基本的な考え方

全国的な動きとして、少子化の進展にともない乳幼児の減少が進むなかで、女性の社会進出により低年齢から保育を必要とする家庭が増加の傾向にあります。そのため保育所入所待機児童が増加してきている状況があります。また、早朝および延長保育・一時保育・休日保育・病児保育・子育ての相談等保護者のニーズが多様化してきています。

このような社会情勢のなか、国では「認定こども園」の制度が打ち出されてきました。この制度は、幼稚園と保育所の枠組みを超えて、就学前の子どもに対し幼児教育・保育を一体的に提供するとともに、地域における子育て支援の取組を付加させる新たな制度として県の認定を受け実施することとなっています。国の計画期間中の認定こども園の目標数は2,000件であり、創設（平成18年10月）から3年が経過していますが、大幅な伸びはなく、運用改善策など総合的な支援方策が検討されています。

また、全国的に保育所数は増加していますが、公立保育所数は減少し、民間保育所数が増加している現状があります。保育所の民営化の流れは進み、幼稚園数は減少傾向で、公立幼稚園、私立幼稚園とも年々減少しています。

野洲市においては、現在、幼児教育・保育を提供する施設として、公立幼稚園6園と公立保育所5園、民間保育所5園があり、3歳以上児については、現在の幼稚園と保育所の定員枠で、どちらかに入園（所）が可能となっています。幼稚園の3年保育を早期に実施したことで、ここ数年、幼稚園の入園児数は横ばいの状況で入園率は約60%です。

保育所においては、低年齢児（0・1・2歳児）の年度途中の入所希望は多いものの、入所希望の保育所にばらつきがあることから、保育所を新設しなければならないほどの待機児童も無い状況です。保育所は定員の弾力化の拡大により入所ができることから、ここ数年、4月現在の入園率は約100%、3月現在は約110%であり、年度途中で増加しています。

今後は、乳幼児人口の推移の推計から考えると、乳幼児の人口増加は望めないものの、社会情勢や保護者のニーズ、子どもの教育・保育と養育を充実していくためには、現有保育・教育施設を有効活用する方向で保育ニーズに対応します。

国が進めている認定こども園は、教育・保育機能以外に子育て支援機能の提供が必須となっています。

しかし、野洲市においては、3か所の子育て支援センターが核となった子育て支援施策や、地域でも、民生委員・児童委員が主体となった子育て支援が定着しつつあります。このことから、本市においては、認定こども園を導入しなくても、既に子育て支援の機能が果たしているところであり、認定こども園ではなく、独自の幼児園方式の方向で幼保一元化を進めます。

また、野洲市財政健全化計画の中では、保育園1園の民営化について検討する方向となっていますが、保育園の民営化を進めるに際しては、譲渡施設の耐震化、さらには地域住民、保護者等の理解と合意形成が必要となります。したがって、早急に結論が見出せない状況にあるため、引き続き慎重に検討をします。

IV 幼稚園・保育所（園）の現状と課題及び今後の方向性

1. 野洲市全体

現状と課題	今後の方向性
<p>幼稚園は公立が6か所でいずれも定員を下回っており、就園率は低下傾向にあります。また、保育所（園）は公立が5か所、民間が5か所ありますが、篠原・三上学区以外は定員をオーバーしており、待機児があるという状況です。特に、駅に近い野洲学区や北野学区の市街地にある保育所（園）には入所希望者が多く、常時待機児童がいる状況にあります。民間保育所は地域の実態にあわせ、産休明け保育、延長保育、一時保育、24時間保育等の特別保育事業が実施されています。市全体の保育所（園）で利用者の多様なニーズに応え、種々の取り組みを行っています。</p> <p>乳幼児期の生育環境は、人間形成に重要な役割を果たすものでありますが、地域の活力（教育力）が弱くなり、少子化が進み、子ども同士が遊ぶ機会が少なくなるとともに、育児に不安を抱かえた保護者の増加という現代の子育て事情からも、「保育に欠ける、欠けない」といった区分では対応できなくなってきました。</p> <p>保育所（園）では、早朝・延長・夜間を含む延長保育、一時保育、休日保育のニーズが高まり、幼稚園でも、帰宅後の遊びや生活の保障の必要性が求められています。近年増えつづける幼児虐待を早期発見し、対応していくためにも、保護者への子育て支援をきめ細かく実施していく必要があります。</p> <p>また、幼稚園の1学級の定数は、中主幼稚園のみが、3歳児20人、4・5歳児30人となっていますが、その他の園では、3歳児が25人、4・5歳児が35人を基本においてクラス編成をしており、市内で不均一が生じています。この25人・35人という学級編成は、落ち着いて生活し、互いに育ちあう集団生活になりにくい現状にあります。また、特別支援を必要とする幼児が増え、少人数での保育が必要となっています。</p> <p>〔参考〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園は、文科省令幼稚園設置規準では1学級の幼児数は35人以下とすると定められている。 保育所は、児童福祉法および児童福祉設置規準により、保育士の数は「満3歳以上満4歳に満たない幼児は概ね20人につき1人以上、満4歳以上の幼児は概ね30人につき1人以上とする」と定められている。 	<ul style="list-style-type: none"> これからの幼稚園・保育所（園）には、子どもの健やかな成長発達を育む観点から、子どもの権利や保護者の就労、子育て支援を保障する等、多様なニーズに対応できる新しい保育をめざしていきます。 その体制づくりの一つとして、野洲市では幼保の本来的機能に厳然とした法的な区分がありますが、幼保一元化については、学区の現状を踏まえながら進めていきます。 また、子どもの日々の生活時間やそれぞれの発達段階に応じ、野洲市内で統一された「野洲市乳幼児保育計画」を実践しながら必要な見直しを行い、より質の高い保育内容をめざします。 幼稚園・保育所（園）職員の資質向上と活性化を図るため、人事交流や合同研修会を行っています。さらに公立・民間による運営主体の違いに関わらず、保育内容・研修・会議等は可能な限り、合同で実施し、連携を強化します。 幼稚園の預かり保育については、次世代育成支援に関するニーズ調査において、幼稚園の預かり保育希望が25.8%となっています。保護者の勤務形態も多様化する中で、幼稚園の預かり保育の実施は、保護者の就労支援や子育て支援の選択肢を広げる効果があることから、預かり保育を篠原幼稚園を除く全園に拡大します。 また、預かり保育や幼保一元化を実施するに当たって、落ち着いて生活し、互いに育ちあう集団生活を過ごせるように、年齢ごとにふさわしい集団規模として、すべての幼稚園において3歳以上児の1学級の幼児数を保育所の基準に合わせるよう検討を進めます。

2. 篠原学区

現状と課題	今後の方向性
<p>公立保育所（園）1か所、公立幼稚園1か所があり、市内の中で人口が一番少ない（乳幼児人口も少ない）学区です。</p> <p>保育所（園）については、他学区からの入所が多くなっています。幼稚園については、定員に満たない受け入れ（約44%）で、集団保育が困難になってきています。</p> <p>学区内保護者からも「子どもが少なく、集団保育ができないのではないか。」等の声が出ています。平成20年10月に篠原学区の乳幼児を持つ保護者に対して実施しましたアンケートの回答にも、幼保一元化に対する強いニーズがありました。</p>	<ul style="list-style-type: none">篠原幼稚園の一部は耐震補強が必要なことから、篠原保育園の施設に増築することで、幼稚園と保育園の機能を併せ持つ、（仮称）「篠原幼児園」として、平成23年から24年開所を目指して施設整備を進めていきます。保護者との合意形成を図ったうえで、幼稚園や保育園が培ってきた保育・幼児教育機能や知識、経験等を統合し、子どもや保護者に対して必要な支援を一体的に提供します。

3. 祇王学区

現状と課題	今後の方向性
<p>公立幼稚園1か所、民間保育所（園）1か所があり、住宅開発による人口増加の学区となっています。</p> <p>保育所（園）については低年齢児の入所希望が多く、定員を超えて受け入れをしています。</p> <p>幼稚園については定員に満たない受け入れ（約67%）となっています。</p>	<ul style="list-style-type: none">平成22年度から祇王幼稚園において、現状の施設を有効活用しながら、預かり保育を実施していきます。園児数の増加の動向をみて、保育室の増築を検討していきます。幼稚園の降園時間を14時まで延長します。（3歳児は、発達状況を踏まえ段階的な降園時間を設定します）

4. 野洲学区

現状と課題	今後の方向性
<p>公立幼稚園 1 か所、公立保育所（園） 2 か所、民間保育所（園） 2 か所があり、人口増加の学区です。</p> <p>保育所（園）については低年齢児の入所希望が多く、すべての園で定員を超えて受け入れをしています。</p> <p>公立保育所（園）では耐震診断の結果、耐震補強が必要となっていますが、保育をしながらの改修は困難な状況にあり、適切な手法を検討しています。また、民間保育所（園）では、一時保育や 24 時間保育などの、特別保育事業を実施しており、平成 20 年度より 1 か所で特定保育も実施しています。</p> <p>幼稚園については、定員に満たない受け入れ（約 63%）となっています。</p>	<ul style="list-style-type: none">平成 22 年度から野洲幼稚園において、現状の施設を有効活用をしながら、預かり保育を実施して、降園時間を 14 時まで延長します。（3 歳児は、発達状況を踏まえ段階的な降園時間を設定します）耐震補強が必要な野洲第一保育園は、平成 22 年度を目途に施設整備計画を策定します。

5. 北野学区

現状と課題	今後の方向性
<p>公立幼稚園 1 か所、公立保育所（園） 1 か所、民間保育所（園） 1 か所があり、人口増加の学区です。</p> <p>保育所（園）については、低年齢児の入所希望が多く、定員を超えて受け入れをしています。また、公立保育所（園） 1 園は、耐震診断の結果、耐震補強が必要となっています。同じ場所での施設改修は敷地が狭隘で困難な状況にあります。</p> <p>幼稚園については定員に満たない受け入れ（約 62%）となっています。</p>	<ul style="list-style-type: none">平成 22 年度から北野幼稚園において、現状の施設を有効活用をしながら、預かり保育を実施していきます。幼稚園の降園時間を 14 時まで延長します。（3 歳児は、発達状況を踏まえ段階的な降園時間を設定します）耐震補強の必要な野洲第二保育園は、平成 22 年度を目途に施設整備計画を策定します。

6. 中主学区

現状と課題	今後の方向性
<p>公立幼稚園 1 か所、民間保育所 1 か所があり、人口の増減はあまりない学区です。</p> <p>しかし、旧中主町全域（広域）が対象で、幼稚園は定員 400 人という大規模な園で、通園バスを運行しています。</p> <p>平成 14 年度に民営化した民間保育所では、主に 0 歳児から 2 歳児の受け入れをしています。また、幼稚園の預かり保育では対応できない幼児（3 歳以上児約 45 名）の受け入れもあります。</p> <p>中主幼稚園は、園舎や敷地が広大であることから、安全管理面において課題があります。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 子どもの安全管理面から、中主幼稚園の適正規模（定員の見直し）を検討していきます。• 中主幼稚園の通園バスの利用可能な送迎範囲を改めていきます。• 幼稚園の降園時間を 14 時まで延長します。（3 歳児は発達状況を踏まえ段階的な降園時間を設定します）

7. 三上学区

現状と課題	今後の方向性
<p>子ども数の減少と三上第一保育園の老朽化に伴い、平成 18 年 3 月に三上第一保育園を廃園し、三上第二保育園を三上保育園と改名しました。三上第一保育園の廃園に伴い、地域住民へのサービスの低下にならないように配慮し、三上幼稚園において、預かり保育を開始しました。</p> <p>現在公立保育所（園）1 か所、公立幼稚園 1 か所があります。子ども数の減少傾向は引き続きみられます。</p> <p>公立保育所（園）では、耐震診断の結果、耐震補強が必要となっています。</p>	<ul style="list-style-type: none">• 三上保育園の耐震補強が必要になることから、移転新築も検討していきます。• 三上幼稚園と三上保育園の幼保一元化として「幼児園」の設置を検討していきます。• 幼稚園の降園時間を 14 時まで延長します。（3 歳児は、発達状況を踏まえ段階的な降園時間を設定します）

<関係資料>

野洲市幼稚園・保育所(園)をめぐる経過

年度	旧野洲町	旧中主町	国・県の動き
平成13年度	○幼稚園3年保育実施検討プロジェクト委員会「幼稚園3年保育実施検討報告書」	○幼稚園預かり保育の開始	
平成14年度		○中主町就学前・教育振興計画作成 ○3年保育開始(中主幼稚園) ○中主保育所が民営化になり、社会福祉法人あやめ保育所として運営開始	10月地方分権改革推進会議最終報告「幼保一元化問題 分野別の見直し方針と具体的措置の提言」 ○幼稚園と保育所は地域の判断で一元化できる方向で見直しすべきである ○幼稚園教諭と保育士の資格の一元化の推進と幼保の制度的一元化へ向けた検討が必要である。
平成15年度			(県)滋賀県教育委員会「幼稚園・保育所の共用施設に係る調査研究報告書」
平成16年度	○野洲町乳幼児保育検討プロジェクトチーム「野洲町乳幼児保育のあり方報告書」 ○保育所と幼稚園の枠を超えるためのポイント整理 ○園児数が減少傾向にある三上第一保育園と篠原幼稚園の今後のあり方について ○野洲町乳幼児保育年間指導計画の作成 ○今後の検討事項の整理		公立保育所一般財源化

年度	野洲市（10月中主町・野洲町合併）	国・県の動き
平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野洲市乳幼児保育のあり方ワーキンググループを設置し、17年度設置予定の「野洲市乳幼児保育のあり方検討委員会」との連携や乳幼児保育に関する緊急の課題についての協議を開始 3月 野洲市次世代育成支援行動計画策定（平成17年度～平成21年度前期計画） 	
平成17年度	<ul style="list-style-type: none"> 4月 幼稚園3年保育開始（野洲幼稚園、篠原幼稚園、三上幼稚園） しみんふくし保育の家（認可） ○野洲市乳幼児保育のあり方検討委員会開催（2回） 1月 篠原学区保幼保護者アンケート実施 2月 「野洲市乳幼児保育のあり方に関する報告書」 －幼保一元化に向けて－ 3月 三上第一保育園廃園 	
平成18年度	<ul style="list-style-type: none"> 4月 幼稚園3年保育開始（北野幼稚園、祇王幼稚園） 三上幼稚園預かり保育開始 ○ 公立幼稚園・保育園で「野洲市乳幼児保育年間指導計画」に基づいた保育を実施 ○ 野洲市乳幼児保育ワーキング会議開催（4回） 	10月 就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律施行
平成19年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公立幼稚園・保育園で「野洲市乳幼児保育年間指導計画」に基づいた保育を実施 ○ 野洲市乳幼児保育ワーキング会議開催（4回） 	
平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> 4月 幼児課設置 野洲優愛保育園モンチ開園 9月 篠原学区の乳幼児保育に関するアンケート実施 1月 「次世代育成支援に関するニーズ調査」実施 ○ 公立幼稚園・保育園で「野洲市乳幼児保育年間指導計画」を見直し、保育を実施 ○ 野洲市乳幼児保育ワーキング会議開催（9回） 	
平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> ○「野洲市乳幼児保育振興計画（案）」作成 ○野洲市乳幼児保育ワーキング会議開催 ○野洲市次世代育成支援行動計画見直し・策定（平成22年度～26年度後期計画） 	保育所指針改正 幼稚園教育要領改正